

1. 日時：2018 年 10 月 19 日（金） 14:00～17:00

2. 場所：大阪工業大学梅田キャンパス 会議室 302

（〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町 1 番 45 号 OIT 梅田タワー3 階 302 号室）

3. 出席者：13 名（敬称略，下線は欠席者）

委員：西山峰広，宮川豊章，佐藤裕一，中村健一，荒木茂，阿波野昌幸，市岡有香子，市澤勇彦，井上晋，上田多門，上田昇，大久保孝，大下栄吉，大塚夕，鎌田敏郎，寒川勝彦，岸本一蔵，葛目和宏，久保善司，倉富芳朗，後藤友和，坂田博史，島田安章，杉田篤彦，田中秀人，谷昌典，寺口秀明，中塚侖，中村佳史，服部篤史，丸山一平，三方康弘，山下亮，吉田正友

講演者：青木 治子 氏（日本ピーエス中部支店）

山崎 順二 氏（浅沼組技術研究所）

4. 配布資料：

1：プレキャスト部材を用いた組立式 PC 栈橋（青木 治子 氏）

2：表層透気性における構造体コンクリートの耐久性評価（山崎 順二 氏）

3：実大コンクリート壁における各種の透気性試験に関する共通試験（同）

5. 議事内容：

(1) 「プレキャスト部材を用いた組立式 PC 栈橋」に関して青木治子氏（日本ピーエス中部支店）より説明があり，以下の質疑応答がなされた。

（質疑応答）

- ・ 縦梁と横梁を緊結する際の接合面や止水のディテールを教えてください。
→ ウェット目地をしている。数 mm の隙間があり，無収縮モルタルを打っている。せん断キーは両面とも凹型としている。
- ・ 荷重に対する余裕は？
→ 目地については引張が出ないように設計している。
- ・ 緊張施工順序により影響は出ないか？
→ 特に決まった方法はない。杭の抵抗は固定条件として考慮している。
- ・ 耐震バースの場合，地震時の目地はどのように挙動して抵抗するのか？
→ FEM を使用しているが詳細な設計内容は把握していない。
- ・ コンクリート強度は？
→ 50N/mm^2 。ただし一部で 40N/mm^2 。
- ・ 更新前の栈橋は？
→ 現場打ちで築 30 年以上。塩害による劣化が著しかった。
- ・ 実験をした？
→ 特にしていない。
- ・ 既設杭の健全性は？
→ 当社では調査していないが，別会社が調べた模様。

- ・ コンクリートに対する材料的配慮は？
→ 混和材は使用していない。すべて普通コンクリート。ただし PC 定着部等はエポキシ塗布やカバー等の対策を取っている。
- ・ PC は？
→ PC 鋼材は裸，シー스는メッキあり。施工中はシー스에蓋をして海水が入らないよう気を付けている。海水位置より上。潮位上昇の可能性もあるかもしれないが，今回の事例ではなかった。
- ・ 裏面のメンテナンスはしない？
→ 全くしない訳ではないと思うが，明確な点検方針はない。
- ・ 今回のコンクリート材料では 30 年程度でかぶり劣化する恐れもあると思う。高炉セメント，フライアッシュ等の使用を推奨する。
→ 今後検討したい。

(2) 「表層透気性における構造体コンクリートの耐久性評価」に関して山崎順二氏（浅沼組技術研究所）より説明があり，以下の質疑応答がなされた。

（質疑応答）

- ・ 機器は経年によって結果が異なる？
→ その可能性はある。実験に使用した機器は経年しているものもあれば新品もある。
- ・ 仕上げしている場合はシングルチャンバーとダブルチャンバーを併用しなければならない？
→ その通り。
- ・ 仕上げ材で透気性が非常に低いということは，よく守られているということ？
→ その通り。
- ・ 「環境や材料に応じた係数 α ， β 」とは？
→ 主に水セメント比により決まる係数。
- ・ 計測結果をどのように使用する？
→ 数値に基づいてランク付けしている。
- ・ 含水条件，養生条件の影響を受ける？
→ 非常に強く受ける。
- ・ 壁を対象としている？
→ 柱，梁も可。垂直，水平でもいけるが，水平上面は好ましくない。
- ・ 真鍮パイプを使うのは？
→ パイプの先で計測する。
- ・ 建築学会の規格は？
→ 建築学会，非破壊検査協会で提言している。最終的に JASS5 への記載を目指したい。

(3) 次回開催日時について

次回は，後日，日程調整を行う。

以上 （記録：佐藤）